

“多摩市”が目指す姿

【第六次多摩市総合計画】

目指す姿のひとつとして「だれもが生活しやすく往来できるために地域性に配慮した交通環境が整ったまちの中で、快適に移動している」としている。

【多摩市都市計画マスタープラン】

駅や近隣センターにおける「ウォーカブルなまちづくりの推進」、駅における「交通結節点機能の充実」を図るとしている。

【多摩ニュータウンの新たな再生方針】

駅周辺への都市機能集積、近隣センターへの生活機能集積を図るとしている。

多摩市地域公共交通の現状

地域特性

- ・団地を中心に入り人口減少・高齢化が進行している。
- ・商業施設・医療施設等は、駅周辺に多く集積、各地域内にも一部立地している。
- ・市内は、高低差・起伏がある。

移動実態

- ・通勤・通学等において市外への外出が多く、鉄道・モノレールが支えている。
- ・買物や通院などにおいて、各地域から鉄道駅周辺までの移動が多く、路線バスやミニバスが支えている
- ・各地域内にも商業施設や医療施設が点在し、地域内における外出も一定程度みられる。
- ・生活様式の変化に伴い、近所までの移動需要が高まっている。

公共交通の現状

- ・充実した公共交通ネットワークが展開されている。
- ・交通事業者においては乗務員不足が深刻化している（今後も不足する見込み）。

“公共交通”が目指す将来像

<基本理念>

どこに暮らしていても
子どもからお年寄りまで
どこへでも快適に移動できる

- ・駅から遠いところでも、坂が多い住宅地でも、車がなくとも、市外に住んでいても、駅前の商業施設、近所のスーパー・クリニック、市外の学校や会社等へ公共交通で移動することができるまちを目指します。

目標①市外へ・市外からの移動を支える広域交通の維持・拡充

- ・通勤通学や来街を支える広域的な交通として、長期的な視点で整備を促進する。

目標②市内主要拠点への移動を支える幹線交通の維持

- ・乗務員不足・利用者減少を抱える状況であるが、市民生活を支える重要な公共交通軸として、サービス水準を確保・維持するため、新技術の導入や適正な再編を図る。

目標③身近な移動を支える地域密着型交通の充実

- ・住宅地内に商業施設や医療施設が立地しているものの、高低差があり、高齢者等においては生活がしにくい状況である。自宅から最寄りの施設は、日常の買い物・通院を多様な手段にて支えていく。

目標④多様な交通をシームレスにつなぐ交通環境の充実

- ・鉄道駅は、広域交通・幹線交通等が乗り入れ、市民から来訪者までの移動を支える交通拠点として機能を高める。
- ・地域内の近隣センター等は、幹線交通や地域密着型交通が乗り入れ、主に市民の生活を支える地域拠点として機能を高める。

目指す将来像の実現に向けた課題

広域交通の維持・拡充に向けた課題

- ・関係者との継続的な協議が必要

幹線交通の維持に向けた課題

- ・乗務員不足への対応が必要
- ・路線バスの収入増が必要
- ・収支構造の適正化（シルバーパス制度の適正化）
- ・事業者間の役割分担

地域密着型交通の充実に向けた課題

- ・ミニバスの担い手の確保
- ・ミニバス・路線バスとの役割分担
- ・ミニバスの収入確保
- ・タクシー乗務員の確保
- ・近距離移動の支援

交通結節点（主要交通拠点・モビリティハブ）の充実に向けた課題

- ・バスターミナルの快適性向上
 - ・乗継情報の連続性確保
 - ・方面とバス乗り場の統一
 - ・設備の老朽化への対応
- ・各地域内における交通結節機能の向上
 - ・近隣センターの交通機能強化
 - ・団地内空閑地の活用による交通機能強化

施策・事業（たたき案）

交通事業者との協議

関係機関との協議

公共交通の担い手確保

- ・市と交通事業者が連携した求人募集
- ・働きやすい環境の整備
- ・地域主体の交通サービスの検討
- ・自動運転技術の実証実験の実施

ミニバスの再編

- ・南北線の見直し
- ・東西線の見直し
- ・運賃体系の見直し

タクシー活用

- ・住宅地内におけるタクシー待機所の整備
- ・タクシー利用助成制度の拡充

マイクロモビリティの導入検討

- ・電動車イスのシェアリングサービス、シェアサイクル、電動キックボード等

公共交通同士や多様な移動手段との連携強化

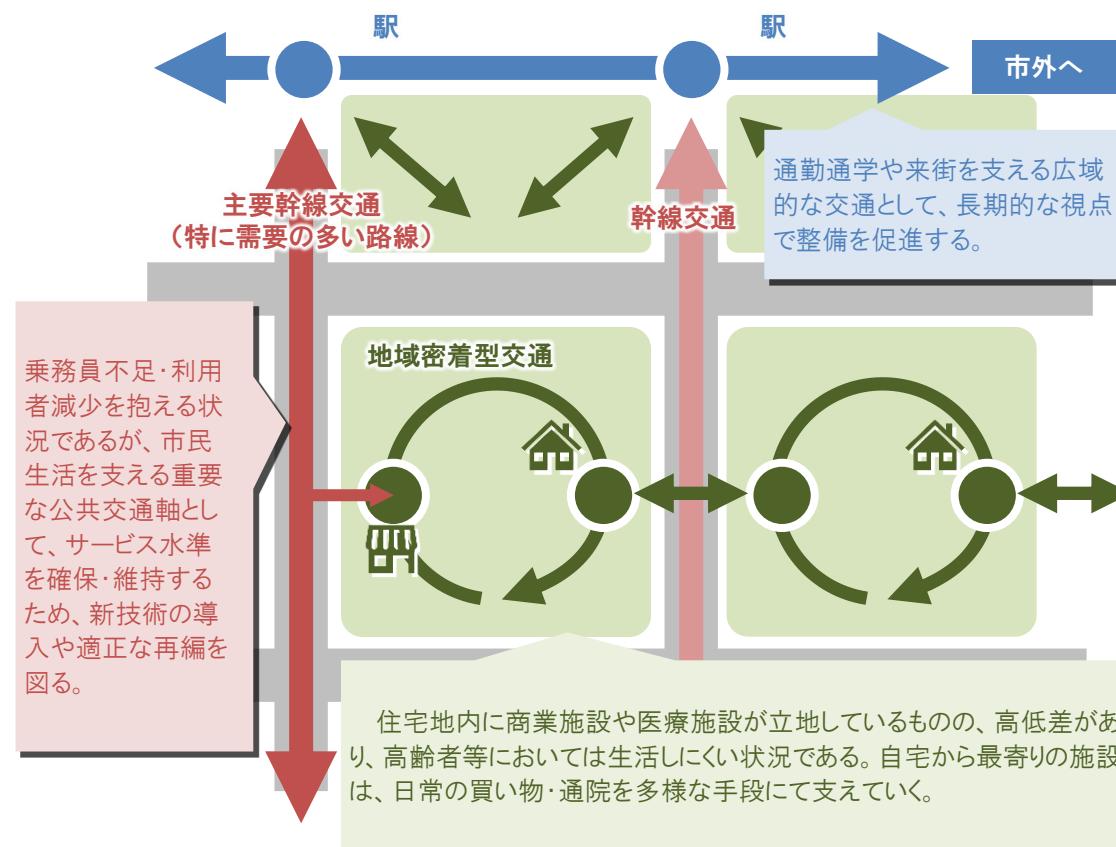
- ・交通結節点における連続的・一体的な情報発信
- ・モビリティハブの整備

公共交通の利用促進

- ・利用啓発チラシ等の作成
- ・利用機会の創出（バス無料デーの実施等）

次期多摩市交通マスタープラン（全体像）

市内公共交通の役割分担



↔ 幹線交通
鉄道、モノレール
市外への移動、市外からの移動を支える公共交通

↔ 地域密着型交通
路線バス
各地域から鉄道駅までの移動を支える公共交通
※特に需要が多い区間を“主要幹線軸”として優先的に維持する。

↔ 地域密着型交通
ミニバス、タクシー
自宅近くから地域内の生活施設(スーパー・医院・集合施設等)、バス停までの移動を支える公共交通

● 主要交通拠点
(鉄道駅など)
広域交通・幹線交通等が乗り入れ、市民から来訪者までの移動を支える交通拠点

● モビリティハブ
(近隣センターなど)
幹線交通や地域密着型交通(ミニバス・デマンド交通、シェアサイクル等)が乗り入れ、主に市民の生活を支える地域拠点



<モビリティハブのイメージ>

目指す地域公共交通ネットワーク

